

第3回アドバイザー委員会の評価と助言を受けて

令和6年7月

国立研究開発法人科学技術振興機構

アジア・太平洋総合研究センター

I アドバイザリー委員会による評価・助言の実施概要

アジア・太平洋総合研究センター（以下、APRC という）は、「アジア・太平洋総合研究センターアドバイザリー委員会規則（令和3年規則第85号）」に基づき令和6年5月29日に第3回アドバイザリー委員会を開催し、委員会より令和5年度の活動と成果および令和6年度の事業計画に関して、業務の改善に資する評価と助言を受けた。

本文書では、委員会による評価と助言を整理し、それらに対するAPRCの対応方針をまとめた。

1. 評価・助言の対象

「アジア・太平洋総合研究センターアドバイザリー委員会規則（令和3年規則第85号）」に基づき、以下のアジア・太平洋総合研究センター事業の令和5年度の活動およびその成果と令和6年度の事業運営の基本方針および事業計画を対象とした。

【アジア・太平洋総合研究センター事業について】

1) 令和5年度の調査研究

- ①アジア・太平洋地域の科学技術イノベーション政策、研究開発動向等に関する調査（フィージビリティスタディ（FS）調査等を含む）について
- ②各種データベースの運用について

2) 令和5年度の情報発信

- ①各種情報発信サイトの運営状況について
- ②各種情報発信サイトによる成果の発信について

3) 令和5年度の交流推進

- ①アジア・太平洋研究会の運営について
- ②国際研究交流等の推進について

4) 令和6年度の事業運営の基本方針および事業計画について

2. 評価目的

対象事業について評価・助言を受け、今後のAPRCの業務の改善に資する。

3. 評価者

本評価は、以下のAPRCアドバイザリー委員会の委員長および委員が実施した。

委員長	木村 福成	慶應義塾大学 名誉教授・シニア教授
委員	川上 桃子	神奈川大学経済学部 教授
〃	川島 真	東京大学大学院総合文化研究科 教授
〃	黒田 篤郎	株式会社日本貿易保険 代表取締役社長
〃	竹山 春子	早稲田大学理工学術院 教授
〃	土屋 貴裕	京都先端科学大学経済経営学部経済学科 准教授
〃	藤木 完治	一般財団法人日本宇宙フォーラム 理事長

※沖大幹委員についてはご欠席

4. 評価の方法

下記の議事次第により開催した第3回APRCアドバイザリー委員会において、APRC事務局から令和5年度の活動と成果、第2回アドバイザリー委員会の評価と助言を受けた対応内容および、令和6年度の事業計画等について説明を行った後、各委員からの質疑・自由討議を経て評価シートにより、評価・助言を受けた。

【第3回APRCアドバイザリー委員会の議事次第】

日時： 令和6年5月29日（水）15:30～17:30

方法： 実開催

- 議題：
1. 開会挨拶
 2. 令和5年度活動実績の報告
 3. 令和6年度事業計画の説明
 4. 自由討議
 5. 閉会

II 評価・助言の内容および APRC の対応方針

○アジア・太平洋総合研究センター事業について

1) 令和5年度の調査研究

①アジア・太平洋地域の科学技術イノベーション政策、研究開発動向等に関する調査（フイージビリティスタディ（FS）調査等を含む）について

評価内容

- ・ 中国はもとより、韓国、シンガポール、インドネシア、豪州、さらに FS 調査を含め台湾、インド等幅広い地域の研究開発・イノベーション動向、人材育成やスタートアップ育成の状況、国際連携等について調査し、日本の強み・弱みとアジア・太平洋地域の協力ニーズの把握に資する調査結果となっている。
- ・ 限られた予算と人員の制約の中で、調査報告書の作成が令和4年度8件より令和5年度11件に増加しているうえ、外部委託は3件に留め、内製プロジェクトが増えてきている。発足4年目を迎えて APRC 内で専門家が育ち、研究調査機能がますます充実していることは素晴らしい。
- ・ 令和5年度に開催した第2回アドバイザリー委員会の意見も踏まえて、報告書の英語化が令和4年度3件より令和5年度11件に大幅に増加しており、国際的認知度を向上させる努力を高く評価したい。
- ・ 取材、寄稿数、海外機関からの二次利用が増加している。APRC としての成果発信を拡大し、国際も含む一般社会からの認知度が上がっていることを高く評価する。

助言内容

（調査研究テーマ選定について）

- ・ JST 国際部で実施している ASPIRE の対象分野である、AI・情報、バイオ、エネルギー、マテリアル、量子、半導体、通信の7分野を参考に、調査対象分野の拡大を検討すべき。
- ・ 環境変動にかかる技術や投資プロジェクトの成果とその評価についても調査研究すべき。
- ・ 経済安全保障政策や産業政策と科学技術政策との一体的な検討、またそれに基づく調査研究が望まれる。
- ・ 生成 AI について開発とは別に、利用側としてのアジア諸国の見解といった観点から調査研究することも、日本が国際ルール作りに参加するうえで重要である。
- ・ 科学技術イノベーション政策において人材育成は重要であり、ダイバーシティーの観点についても留意した調査が望まれる。

(調査研究方法について)

- ・ ネットワーク構築のためにも、センターが研究のハブとなり、大学等の研究者との接点を持つことができれば素晴らしい。
- ・ AI やビッグデータ解析等を積極的に取り入れた研究プロジェクトの拡充、クロスディシプリナリー、文理融合による学際的な調査研究を進めるべき。

(調査研究成果の展開について)

- ・ APRC の社会的認知度の向上に向け、調査研究成果の発信に向けた SNS の活用、シンポジウムの開催など効果的な広報が必要。
- ・ 英語化した調査報告書の海外発信方法について検討する必要がある。
- ・ 調査研究成果の二次利用先の機関属性に関し、現行の文献等での引用に基づく集計だけでなく、より頻度の高い利用者属性などもカウントできると良い。

APRC の対応方針

- ・ ASPIRE の対象 7 分野のうちバイオ、エネルギー分野を令和 5 年度の調査対象分野としたが、令和 6 年度は AI 分野を調査対象分野とする。また、今後も調査分野を選定するうえで ASPIRE の 7 分野を参考にする。
- ・ AI 分野の調査においては、我が国が国際ルール作りへ参画する際に参考となるよう、アジア諸国の利用者ニーズや利用のあり方といった観点も含めて調査できないか検討する。
- ・ 環境変動、特に温室効果ガス削減に係わる低炭素化技術や投資プロジェクトの成果等についての調査研究ニーズを検討したうえで、令和 7 年度以降の調査研究テーマ選定の際に考慮する。
- ・ 令和 6 年度実施する重要新興技術、国際協力等に関する調査の中でも、狭義の科学技術政策の調査に限定することなく、経済安全保障政策等の観点も必要に応じて含めて一体的に調査研究を行うよう努める。
- ・ ダイバーシティに関する調査研究ニーズを検討したうえで、来年度以降の調査研究テーマ選定の際に考慮する。
- ・ 調査報告書の内製によって調査研究力強化・人材育成を図ると同時に、大学の研究者など外部有識者による研究会等を通じたネットワーク構築もすすめ、ハブ機能の強化を図る。
- ・ 世界の情報を集約した論文データベースや特許データベース等を用いた研究開発動向等の分析はこれまでも行ってきたところだが、分野融合等の学際的な研究分野を対象とした調査も今後の調査研究課題の選定等の際に、適宜考慮する。
- ・ 各報告書の内容を踏まえ、学会やアジア・太平洋研究会等での効果的な成果発信方法を検討する。
- ・ 国際イベント、機構への要人往来、海外出張等の機会を捉えて、英語の調査報告

書の周知宣伝に取り組む。

- ・ 調査報告成果の利用者属性やご意見などのコメントを収集する方法を今後検討する。

② 各種データベースの運用について

評価内容

- ・ 各種データベースのコンテンツが一層充実しており、内外の研究者にとって有益な研究補助ツールとなっている。データベースは継続性が重要であり引き続き有益なデータベースの提供を期待する。
- ・ 有力研究者データベースは、アジア太平洋地域との連携協力を進めるうえで非常に有益と期待していたゆえに、システムの移管断念を含め、運用を中止したことは残念である。
- ・ 中国関連データベースが高いレベルで整備、維持されてきていることは、高く評価する。中国の科学技術が、今後、米国と並んで質・量ともに世界をリードしている状況の中で、その継続的な整備、運用が必要である。

助言内容

(有力研究者データベースについて)

- ・ 形態を問わず機能が維持されることが望ましい。
- ・ 将来、データベースを再構築する場合に備え、利用ケースや効果を検証しておいてはどうか。

(中国・アジア研究論文データベースについて)

- ・ 事務局に提案した改善事項について、今後も改善可能な点があれば対応していただきたい。

APRC の対応方針

- ・ 有力研究者データベースについて、今後は調査対象とする研究分野、対象国・地域等での必要性を踏まえ個別の分析ニーズに限定したデータベースを作成し、分析に利用する。将来、発展したシステムを構築する場合に備え、関連情報を整理し提供できるよう準備をしておく。
- ・ 中国・アジア研究論文データベースは可能な範囲で改善を進めており、利用者にも改善点を周知する。

2) 令和5年度の情報発信

① 各種情報発信サイトの運営状況について

評価内容

- ・ センターの広告塔として重要な役割を果たし、大きな成果を上げたことが高く評価できる。特に、国際頭脳循環に着目している点は時宜を得ている。

助言内容

- ・ 国際頭脳循環については、単に科学者の国際交流といった切り口に留まらず、国境を越えてキャリアを築いてきた科学者たちが、どのように両地の橋渡し役となり、企業活動を含めたイノベーションに貢献しているのか意識的に焦点を当ててはどうか。
- ・ 閲覧者の関心分野に焦点を合わせて発信情報も変化させていくことも重要である。その点、サイエンスジャパンにも日本の政策情報枠を創設するなど、コンテンツ拡充の余地がある。
- ・ サイエンスジャパンのアクセス数はさらなる拡大の余地があり、アウトリーチを強化すべき。
- ・ アクセス解析を詳細に行い、海外が関心を持つ日本の科学技術分野、政策を捉えるべき。

APRCの対応方針

- ・ 日本の大学・研究機関や企業等で活躍する外国人科学者の姿、海外の大学・研究機関や企業等で活躍する日本人科学者の姿を伝える記事をさらに積極的に掲載し、日本と海外双方で研究等を行う魅力を発信する。
- ・ Science Japan においては、日本の科学技術イノベーション政策に関する記事や独自インタビュー記事などを従来よりも積極的に掲載してコンテンツの拡充を図るとともに、広報を促進するなど、アウトリーチ活動を強化する。
- ・ アクセス解析によって海外からの利用者の動向を分析して、関心の高い内容を把握する。

② 各種情報発信サイトによる成果の発信について

評価内容

- ・ 各ポータルサイトの内容、発信数、アクセス数が着実に伸びているのは、国際頭脳循環のインタビュー企画等によるコンテンツ充実、広報や海外公館との連携強化等によるもので、その努力を高く評価する。
- ・ 令和4年度より開始したアクセス元の分析を継続していることは大きな意味がある。
- ・ Science Japan においては、インド、シンガポール、オーストラリアからのアクセスが拡大しており、英語圏での認知度が高まっている。

助言内容

- ・ どのポータルサイトにおいても日本、アメリカ、中国からのアクセスが多い。ASEAN 諸国への英語での対外発信などを増やし、より多様なユーザーからのアクセスを増やすことが課題だろう。

APRC の対応方針

- ・ 国際イベント、要人往来、海外出張等の機会を捉えて、各ポータルサイトの広報活動に努める。
- ・ インドや ASEAN 諸国を含むアジア・太平洋地域の関連メディア等を通じた広報活動を行い、アクセス数の向上を図る。
- ・ 令和5年度は Science Japan のリンク等を在外公館等のサイトに設置したが、設置先からのアクセス数が増加するよう、広報強化する。

3) 令和5年度の交流推進

①アジア・太平洋研究会の運営について

評価内容

- ・ 時宜を得たテーマについて、ふさわしい著名な講師が講演していることで、研究会への参加者が増加している。いずれも視聴していてわかりやすく、プログラムは成功している。
- ・ 海外機関との交流も推進しており、活発な活動を高く評価する。

助言内容

- ・ インドや台湾の関連テーマで開催してはどうか。
- ・ 研究会の名称を、科学技術とイノベーションにフォーカスしたセミナーシリーズであると分かるように工夫することを提案したい。

APRCの対応方針

- ・ 令和6年度の研究会においては、インドと台湾をテーマとした研究会の開催を検討する。
- ・ 研究会名称の変更を検討する。

② 国際研究交流等の推進について

評価内容

- ・ 収集情報の質と量の向上を図るためには、国際交流を拡大するのが大変有効な手段である。日韓 AI ワークショップ開催、ERIA との協力関係構築は大きな意味がある。

助言内容

- ・ 海外機関との協力については、韓国、台湾、オーストラリアに加え、グローバルサウスであるインド、ASEAN 諸国との交流も一層図るべき。

APRC の対応方針

- ・ 本年度は昨年度からの合意に基づき、日韓の AI 分野の科学技術協力の基盤強化に資するため、韓国との AI 分野の第 2 回ワークショップを開催する。
- ・ グローバルサウス関連では、令和 5 年度より着手した ERIA との連携によるイベント開催を通じた ASEAN との交流強化に加えて、インド等においても交流を模索する。

4) 令和6年度の事業運営の基本方針および事業計画について

評価内容

- ・ 科学技術は世界共通と言えども、科学技術協力を進めるにあたっては、何がその地域や国で求められているかに精通し、それぞれの国や地域の科学技術力、科学技術人材の動向等を踏まえて、適格な選択肢を提供していくことが重要である。事業運営の基本方針には、その点が良く示されている。
- ・ 令和6年度に実施を予定している8件の調査報告書はいずれのトピックも重要で、バランスがよい。

助言内容

- ・ APRCがこれまで整備してきたデータベースや調査研究成果、研究者の人的ネットワークを活用して、さらなる研究や活用に結びつけるための仕掛けを今後の事業計画の中で検討してはどうか。

APRCの対応方針

- ・ APRCが築いてきたデータベース、調査研究成果、研究者のネットワーク等の蓄積をセンター内で共有し、新たな調査テーマ等の検討等、令和7年度以降の事業計画に反映していく。

○その他、センターの運営全体についてのご意見

評価内容

- ・ 令和5年度のアドバイザリー委員会の議論を踏まえて、様々な改善を図ったことを、高く評価したい。APRCの機能はアジア・太平洋の科学技術の相互発展に関する重要な公共財であり、更なる発展を期待する。
- ・ センターとして人材育成にも配意した結果、日本にアジア・太平洋地域の科学技術動向についての専門家が育ちつつあることも素晴らしい成果である。今後も、アジア・太平洋に焦点を当てた専門組織として、日本の科学技術力の向上、科学技術外交力の拡大に資する機関になってもらいたい。

助言内容

- ・ 日本の何が魅力なのかという発信が重要になる。グローバルサウスに対する情報発信、それらの国々との関係性がより一層大切になるのではないだろうか。

APRCの対応方針

- ・ 令和6年度も引き続きグローバルサウスまで視野に入れ、調査研究、情報発信、交流推進を行う。

以上